「おわり」から「はじめる」私たちの祈り　　一次案として　（第７回日本伝道会議）

2022/09/19

第７回日本伝道会議では、テーマにそった宣言文（誓約文）を草の根的に作成すること、そのために日本各地の牧師、信徒の意見を集約する方針が立てられました。JCE7 プログラム局は、諸団体や地域の宣教ネットワークに呼びかけて特設サイトで「声」を収集し、JEA 総会や開催地説明懇談会などの機会に説明とディスカッションの時を設けていただき「声」を聞かせていただきました。それらをできるだけ活かして集約する作業を、宣言文作成委員会が担当しました。終盤に、本文を A4 一枚程度にまとめて、会議参加者一同で唱和する、という要請を受け、また内容に鑑みて「祈り」として整えることになりました。

本紙はその第一次案です。一同で共に祈る「本文」に、「解説文」が添えられることになります。「声」の思想の多くは本文に反映されているとしても、その詳細や、また用語の背後にある問題意識などは、解説文に委ねます。その主要なポイントを、この資料では脚注に付記しています。最終形態には脚注は付けず、別途の解説文として提示します。

皆様にお願いです。地区大会でこの第一次案を検討していただいて、質問や要望をお寄せいただきたいのです。ちなみに、当初の問いかけは要約すれば次の 4 つでした。2030 年、日本の宣教はどのようになって欲しいと思うか。そのために、何を大事にすべきか。そのために、何を終わらせたらよいのか。そのために、何をはじめたらよいのか。

この文案について、以下のフォームにご意見を頂きたく思います。
https://forms.gle/RyN8yfxk8fYMik2a9

また不明な点がありましたら以下のメールアドレスまでご連絡をいただけますと幸いです。
jceprokanri@gmail.com　（プログラム局　福井 誠）

よろしくお願いいたします。

宣言文作成委員会　赤坂 泉

序

聖書信仰に立つ日本の教会は、京都会議（1974）から神戸会議（2016）まで 6 回の伝道会議を重ねて宣教のわざに励んできました。第７回日本伝道会議に集まり、学び、祈り、宣教協力のための協議を重ねた私たちは、容易ならぬ現状の認識を新たにし、聖書に聴き直し、主の前に告白と願いをささげます。

「おわり」から「はじめる」私たちの祈り

「**主**よ　私たちの主よ　あなたの御名は全地にわたり　なんと力に満ちていることでしょう[1]。」

この時代のなかで

私たちは今、敵意と混乱の増大する世界、終わりの時代を生きています[2]。民族は民族に、国は国に敵対して立ち上がり、平和がいよいよ脅かされています[3]。大きな地震があり、深刻な飢饉や未知の疫病が起こっています。環境破壊は急速で、地球温暖化は抜き差しならないレベルに達し、災害は甚大化しています[4]。世界の各地で迫害も深刻です[5]。あらゆる分断が世界を覆い[6]、貧困に、迷走する倫理に世界中が痛み、うめいています[7]。

---

[1] 詩篇 8:1a,9
[2] 参照　ルカ 21:7~
[3] ミャンマー、アフガニスタン、香港などでの内戦や人権抑圧、難民問題、また日本での技能実習生や入管問題などを解説。ウクライナへの軍事侵攻がもたらしたものを解説。20 世紀に築かれた国際法上の戦争違法化への取り組みの全面否定。さらには、第 3 次世界大戦や全面核戦争への恐れなど。
[4] 地震から災害までの諸項目について：（札幌宣言以降という意味で）3.11 以来の大きな地震をリストする。（大きな、の基準は要検討。）食糧問題と飢餓。新型コロナ感染症に関するデータと寸評。諸教会の対応？→データブック？、サル痘も？環境問題と、関連する？多くの災害。
[5] 具体的な世界の迫害状況
[6] 現在、世界が直面している最大の問題は、「分断」ではないでしょうか。アメリカでも欧州でも、日本でも、貧富の格差や教育の格差により、格差が固定される「格差社会」が生まれています。先進国と途上国の格差はさらにひどく、難民の受け入れを巡り、各国で極右政党の躍進が見られています。
[7] 経済格差と教育格差、家庭の混乱

この時代の、この国の、各々の現場に主が私たちを遣わしてくださいましたから、そこで御名の輝きを反映して宣教の働きに励むことができるように、私たちを顧み、助けてくださることを信じ、感謝します。

主よ、私たちを平和をつくる者としてください。神との平和、人との平和、そして被造世界との平和の回復のために生きる者としてください。破れ口に立って[8]、主イエス・キリストにある和解の福音をまっすぐに宣べ伝える者としてください。あなたの世界の管理者としての務めに歩ませてください[9]。

教会のなかにある混乱

混乱は世界だけでなく、教会にも侵入しています。私たち教会が、主の前に忠実ではなかった歴史と[10]、今も宣教の務めにおいても、清さにおいても完全に忠実だとは言えない現実とを御前に告白して悔い改め、主の赦しを請います。主よ、私たちをきよくしてください[11]。私たちは聖書の福音に堅く立って、主のみを恐れて歩みたいのです。偽教師や異端を見分けて、まことの救いを宣べ伝えたいのです[12]。差別され[13]、押しのけられ、苦しめられている人々に福音を届けたいのです。主よ、助けてください。

3.11 を経て

主が日本に教会を置き、養い育ててくださったことを感謝しています。3.11 では、福島を始めとして、社会と共に各地の教会もまた未だかつて経験したことのない脅威と直面しました。その後も災害が起こる度に、教会がそれぞれの地域に存在することの意義を深く問われています。同時に、地域間、教会間、教団教派間の壁が取り払われ、これまでにない形で災害対応の協力、そして宣教の協力が前進しました。包括的宣教という視点も教えていただいて、地域に対して開かれた教会の形成が進んできた面もあります。さらに神の国が広げられ、あなたの御名があがめられるように、私たちを神の国のインフルエンサーとして整え、用いてください。

コロナ禍を経て

新型コロナウイルスの感染爆発は世界に大きな災いをもたらしました。私たちもその中で呻くこととなりました。しかし、主よ、あなたは、コロナ禍を通して、私たちに立ち止まって思い巡らす機会を与えてくださいました。礼拝とは何か。交わりとは何か。宣教とは何かを。そして、オンラインや SNS などの新しいツールによるこれまでにない交わりや宣教の機会を拡げてくださいました。変わりゆく世界の中で、主よ、何を変えてゆくべきなのか。何を変えてはいけないのか。それを見極めることができるように、知恵と勇気を与えてください。

地域教会と宣教

地域教会の直面している困難は多面的で、深刻です。停滞と縮小の時代[14]にあって、「2030 年問題」[15]が目の前です。教会では若年層の減少[16]、献身者の減少が顕著であり、無牧教会が増え、あるいは教会の合併や閉鎖が加速しています。新型コロナ感染症のもたらした交わりの課題や経済的な困難もあります。[17]急速に日常化したオンライン活動[18]は、大きな可能性もリスクもはらんでいると考えられます。賢く識別し、正しく生かすことができるように、助けてください。

---

[8] エゼキエル 22:30
[9] 環境コンソーシアム？JCE6 プロジェクト？
[10] 「戦後 50 年にあたっての JEA 声明」(1995)、「戦後 60 年にあたっての JEA 声明」(2005)、「戦後 70 年にあたっての JEA 声明」(2015 年)、沖縄宣言第 2 章、札幌宣言第 1 章等を参照のこと。
[11] 「礼拝の回復」というテーマも
[12] 旧来の異端、近年の異端、コロナ禍での異端の活動、今の統一協会をめぐる世論の関心の高まりなどに言及したい。
＜かつてからあった異端の問題が、最近再び浮上してきて、政界への影響力の大きさに驚かされています。この間、教会は異端の暗躍に気付かずに来たし、そのために声を上げることもしなかったことを深く反省しなくてはいけないのではないかと思わされています。「異端カルト 110 番」の創設も時代を映し出しているように思います。＞
[13] 広く「差別問題」に言及してはどうか。部落？在日？「らい予防法」？ルッキズムとか、、、　**その一環で女性差別、LGBTQ** という流れでは？ホームレス伝道？　cf. ルカ 1:46～55,
[14] 2100 年には日本の人口は 4959 万人と、現在の半分以下となり、896 の自治体が消滅する（『地方消滅』）と予想されている。そのような、歴史上類を見ない人口減少社会において、日本の教会はどのように教会形成をしていくのかが問われている。
[15]
[16] 信仰継承の難しさの問題、若者の教会離れの課題も
[17] データブック第 4 章
[18] 教会の課題としては、オンライン礼拝にかかる評価、聖餐の課題？、オンラインの交わりなど

どうか、私たちに新しい幻 を思い描かせてください。主の御名がさらに輝く日本宣教のあり方を。一教会一牧師は私たちの思い込みなのでしょう[19]。牧師だけが宣教するという考えは、まるで聖書から離れています[20]。思考停止の前例踏襲があるなら、私たちを解き放って、大胆に次の時代を思い描かせてください。教会を、教団教派を、自分たちだけの居心地の良い交わりにして閉ざしてしまうことからお守りください。教会が相互に開かれて協働し、また世に対して、いつも開かれていますように。[21]

全信徒が神の国の民として、キリストの証人として、ますます輝いて生きることができますように。

「日本」を越えて

日本に在留外国人が増え、その教会も増えています[22]。言語の壁、文化の壁を乗り越えて、主にある交わりを形成し、協働できるように、先に日本にある教会から手を伸ばすことができますように。また、海外にある邦人教会や邦人宣教の働きを、そして日本から遣わされた働き人たちによる各地の宣教の働きを[23]、日本の教会のわざとしてともに担っていくことができますように。主が私たちの視野を広げ、また具体的な行動を助けてくださいますように。

「全教会が、全世界に、福音の全体をもたらすこと[24]」に私たちも参与します。

「おわり」から「はじめる」ために

終わりの日が近づいています。その日、主は羊とやぎをより分けるように[25]、世界をさばかれます[26]。この現実を厳かに受け止めつつ、私たちは互いに手を取り合って福音の宣教に励みます。その日、すべての主の民が集められ[27]、キリストにあって地上的なありとあらゆる隔ての壁が打ち壊されて[28]一つとなり[29]、しみもしわも傷もない聖なる栄光の教会とされて、私たちは主の御前に立つことになります[30]。そのとき、すべての痛み、苦しみ、嘆きは癒やされ[31]、地上のすべての働きや労苦は主にあって報われ[32]、義の栄冠が私たちに授けられます[33]。被造物全体がすべてのうめきから解放され、滅びの束縛から完全に自由にされます[34]。そして、愛と平和に満ちた主イエス・キリストの主権が、すべてに行き渡ることになり、私たちはこの方を顔と顔とを合わせて見ることになります[35]。

主よ、私たちは待ち望みます。すべての国民、部族、民族、言語から、数えきれない民が御座の前と子羊の前に立ち、白い衣を身にまとって礼拝する日を[36]。「アーメン。主イエスよ、来てください[37]」。

主イエス・キリストの御名によって共に祈ります。

---

[19] 複数教会を複数教職で牧会するなどのモデルは従来から模索されてきただろうが、さらに？
[20] 信徒の…信徒説教者の・・・から、「信徒リーダーによって牧会されている複数の群れを、牧師がサポートする」ようなモデルも？
[21] 都市部にある教会と地方の教会の間に新しい協働：それぞれの賜物や特色を生かして互いに助け合う。都会の教会からはふるさと納税のように、地方の教会に人材や、献金などでサポートし、地方の教会は都会の教会のために祈り、祈りの場、癒しの場を提供するなど。＜JEA として宣教マップをという声。＞
[22] データブック第２章
[23] データブック第３章
[24] ローザンヌ誓約参照
[25] マタイ 25:31~34
[26] 黙示録 21:8，27，22:15
[27] 黙示録 7:9
[28] エペソ 2:14-19
[29] ガラテヤ 3:28
[30] エペソ 5:27
[31] Ⅱテサロニケ 1:7，黙示録 21:4
[32] ローマ 2:6，Ⅰコリント 15:58，ガラテヤ 6:8-9，黙示録 22:12
[33] Ⅱテモテ 4:7-8
[34] ローマ 8:21-22
[35] コロサイ 1:15-16，Ⅰコリント 15:24-25
[36] 参照　黙示録 7:9
[37] 黙示録 22:20